

「第12回 全国高等学校ビジネスアイデア甲子園」グランプリ受賞作品『BBQを便利にするアイデア』豊橋工業高校が新聞掲載（12月14日～19日付）されました。

2014/01/28

第12回全国高等学校ビジネスアイデア甲子園で応募作品6189件の頂点である「グランプリ」を受賞した愛知県立豊橋工業高等学校豊橋工業課題研究班3（伊藤友一さん、野沢祥太さん、小川卓哉さん、影山裕紀さん、大羽巧也さん）が考案したアイデア「BBQを便利にするアイデア」が新聞に掲載されました。

中日新聞（12月14日付）

## ビジネスアイデア甲子園



「甲子園」に向けプレゼンテーションの練習をする生徒たち＝豊橋市の豊橋工業高で

# 豊橋工業高生きょうりゅう出場

豊橋市の豊橋工業高校の三年生五人が「風で飛ばされない紙皿」を考案し、大阪商業大（大阪府東大阪市）で十四日に開かれる「全国高校ビジネスアイデア甲子園」で発表する。「ささいなアイデアを、みんなの知恵で育て上げた。グランプリを獲得したい」と意気込んでいる。（中山梓）


五人とも、電子機械科の三年生。野沢祥太君（心）が「パーペキューの時に、風で皿が飛ばされるのが不便」と紙皿を改良することを思い付き、全員でアイデアを練り合った。重りを付けたら、プレートと一体化させたり。しかし、いずれも失敗。最後に、皿のふちを机に接するまで低く延ばし、隙間に風が入り込まないように形を変える方法にたどり着いた。

試作品を作り、扇風機を使って実験を重ねた。伊藤友一君（心）は「形が袋井市で開かれるコンテストで持ち上げにくくなるので、指を差し込む穴を付けた」と紹介する。

甲子園には全国の百六十校から六百八十九作品の応募があった。「風で飛ばされない紙皿」は、七作品だけが選ばれた最終審査に残った。十四日は豊橋工の三人も、プレゼンテーションする。小川卓哉君（心）は「これを越える紙皿はない。自信を持って発表した」と話す。指導した小久保寿也教諭（心）は「最初は全然できなかったけど、どんどん良くなっていった。工業高校らしい発表をしてもらいたい」と期待する。

五人はほかに「飛ばない紙コップ」や「定規と一体化した多機能コンパス」などのアイデアを考案。大羽巧也君（心）と影山裕紀君（心）が、十四日に静岡理工科大（静岡県）で開かれるコンテストで発表する。

※この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています

PDF版はこちら(77.7KB) 

中日新聞（12月17日付）

**豊橋工高クランプリ**  
**ビジネスアイデア甲子園**

大阪商業大（大阪府）「アロディッシュ」を考案した。応募した六千  
 大阪商業大（大阪府）で十四日に開かれた「全国高校ビジネスアイデア甲子園」で、豊橋工業高校三年生の五人が考えた

「風に飛ばされない紙皿」が最高賞のクランプリに選ばれた。写真。

皿のふちの形状を変え、ふちの厚さを調節することによって、屋外で使用しても風に飛ばされにくい紙皿「エ

百八十九作品の中から、クランプリに輝いた。実物を制作して実験した点や、利点が明確なことなどが評価されたという。

五人が次に狙うのはエアロディッシュの製品化。三年、野沢祥太君（ひ）は「普通の紙皿より便利だし、メリットは多い。これを機に製品化してほしい」と話し、アイデアを採用してくれる企業がないか、呼び掛けている。（中山梓）



※この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています  
[PDF版はこちら\(44.6KB\)](#)

東日本新聞（12月18日付）

全国ビジネス  
アイデア甲子園

# 豊橋工高がグランプリ

風で飛ばない  
紙皿が高評価  
試行錯誤実り  
6000点の頂点に

豊橋工業高校（豊橋市京間町、吉田豊校長）電子機械科の生徒5人が、今日14日に大阪商業大学（大阪府）で開かれた「全国高等学校ビジネスアイデア甲子園」に出場し、最優秀賞と大賞のグランプリを受賞した。5人は、風で飛ばされない紙皿「エアロ・ディッシュ」を試行錯誤の末に考案。使いやすさなどが評価され、6000点を超える作品の頂点に立った。

アイデア甲子園は、高校生から新商品やサービスに関するアイデアを募集するコンテスト。今年は、全国の高校160校から6189点の作品が出され、最終審査に残った7作品が同大学でプレゼンテーションを行った。

発表を行ったのは、同校3年の野沢祥太くん（18）、伊藤友一くん（18）、小川卓哉くん（18）、影山裕紀くん（18）、大羽巧也くん（18）の5人。BQ（パーベキュー）を便利にするアイデアと題して、紙皿に加工を施す案を発

表した。作品は、皿のふちを低くして風が入り込まないように加工し、指を差し込む穴を設けて持ちやすい形状に改良。5人は、映像を交えて実験結果や工夫点、形状を変えやすい手軽さなどを強調して伝え、グラ

ンプリに輝いた。5人は課題研究の授業や夏休みにもアイデアや意見を出し合い、実験や試作を繰り返した末に受賞作を発表。素材を生かし、容易に加工できる点なども考慮し、実現性の高い作品に仕上げた。野沢くんはプレゼンで100%以上の力は出せた、いずれ商品化されて、アイデアが実現されればうれしい」と頼いを語った。（佐々木雄亮）



アイデア甲子園でグランプリに輝いた電子機械科の5人（豊橋工業高校で）

※この記事・写真等は、東日本新聞社の許諾を得て転載しています

[PDF版はこちら\(80.3KB\)](#)

東愛知新聞（12月19日付）

豊橋工業高の5人

ビジネスコンテストで好成績

風で飛ばない紙皿など3点

豊橋工業高校の生徒5人が、このほど、全国高等学校ビジネスアイデア甲子園」でグランプリ、「高校生ビジネスフロンティア」でベスト100に輝いた。生徒らは「すごくうれしい。将来このアイデアが役に立ってほしい」と感想を述べた。

(川口直康)

生徒はいずれも電子機械科3年の伊藤友一さん、大羽巧也さん、小川卓哉さん、影山裕紀さん、野沢祥法さんの5人。課題研究の授業の一環で、多くのビジネスアイデアを考え、入賞した作品は、風で飛ばないように加工などを実施した紙皿「エアロディッシュ」と紙コップ「かんぱん君」、視覚障害者に振動などで行き先を伝える「guidedog(盲導犬NAVI)」の3つ。

どの作品も生徒自身が体験したことを基に、試行錯誤を得て考案された。特に、ビジネスアイデア甲子園でグランプリを獲得した「エアロディッシュ」は、パーペチュウの動きが風で飛ばされにくいようにするという、身近な題材をテーマにした。エアロディッシュは、紙皿を机などに置いたときにできる皿の縁と机の間をなくすため、縁の部分を下までひたりと薄くまう

に加工。また、その加工に合わせ、困った人の工部分に指を入れる穴の役に立つことが評価されること、持ちやすさも実現した。ほかの2作品も1賞を受賞した。18日は、同グランプリ主催の日本公庫の豊橋支店・井原守茂支店長が同校を訪れ、生徒らに表彰状を手渡した。



「エアロディッシュ」の説明をする生徒ら  
—豊橋工業高校で

※この記事・写真等は、東愛知新聞社の許諾を得て転載しています